



ひまわりノ畑



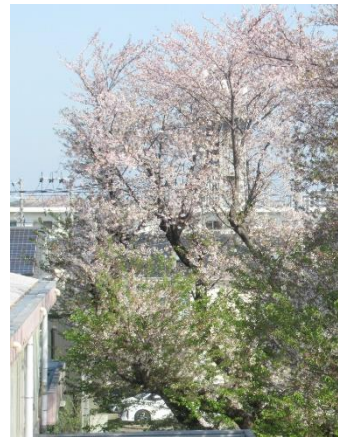
教育目標 思索・和敬・剛健
学校スローガン 笑顔とあいさつそしてありがとう

<http://www.kivose.ed.jp/kivosedaijibutuu/ueakkou/index.htm>

窓の外にはサクラの風景

学校敷地の東側には19本のソメイヨシノが一列に植えられています。今春の開花は、3月19日の卒業式の日でした。地面に近い下の枝から咲き始めて、徐々に空に近い枝の花が開き、春休み中に満開となりました。

4月7日の始業式には、下の枝はすでに花びらが散り、若葉が出ており、根本の地面は桜色の絨毯になっていました。上の枝はまだ咲き残り、4月8日の入学式で席に座わり、2階の窓を見上げると、まだ桜色に染まっていた。木を下から見上げると、若草色と桜色のグラデーションが素敵でした。



桜色と言えば、ソメイヨシノのような淡い薄紅色を思い浮かべますが、江戸時代以前、関東地方で桜の色と言えば、白色が主流でした。当時、関東地方に自生していたのは、大輪で清楚な白い花をつけるオオシマザクラや、白色に近い薄紅色のヤマザクラで、川の土手の補強として植えられるなど街中に桜が咲き、庶民が花見を楽しむ文化が生まれたそうです。平安時代の花見と言えば梅で、桜になったのは江戸時代からのようです。

オオシマザクラは葉や花から、クマリンというバニラに似た香り成分を強く放っており、昔から、若葉や開きかけた蕾を塩漬けにして、桜餅などの和菓子や、桜湯として食されています。ソメイヨシノは、江戸時代後期にオオシマザクラとエドヒガン系の桜が交配されて生まれた園芸種で、花の色や枝ぶりが人々に好まれ、瞬く間に主流になったのですが、香りはほとんどしません。桜色や香り、味をしたグミや飴、サイダーなどのお菓子が売られていますが、私たちがイメージする桜は、ソメイヨシノの色合いと、オオシマザクラの香りです。

その昔、オオシマザクラやヤマザクラは、雑木林にも植えられて、落ち葉は堆肥、切った枝は薪や炭、樹皮は染物に使われるなど、見て楽しむだけではなく、衣食住に欠かせない樹木だったようです。桜に限らず、生活に欠かせない知識は、「さて、これはどうすれば、食べられるかの？」など、昔の人々による挑戦とその失敗と成功という経験の積み重ねから生まれたものです。経験には、「経験する」「経験から学ぶ」「経験を次に生かす」という三つのステップがあり、それ積み上がっていくことが大切です。

4月から始まる令和8年度は、1年生にとっては、何もかもが初めての経験になりますが、小学校での経験が、いくたびも生かされる場面があると思います。2年生は昨年度の経験を基に、上手くいったことはバージョンアップを、上手くいかなかったことは、改善改造改良で経験を積み上げましょう。3年生は、いよいよ中学校で経験するすべての集大成となる1年です。失敗も成功もその価値は絶対値で、経験値は上がるのみ。まして失敗の方が役に立つことが多いようにも思います。令和8年度は、挑戦あるのみです。



R8年度 第46回 入学式 94名の新入生を迎えて

4月8日、快晴のもと、94名の新入生を迎えて、入学式を実施いたしました。本年度は、清瀬市長原田ひろみ様にご臨席を賜り、祝辞を頂きました。そして、平日のご多用の中、清瀬市議会議員の皆様、さらに地域の方々、多くの保護者の皆様に参列頂き、お礼を申し上げます。ありがとうございました。新入生の皆さんも、緊張の中、しっかりと式に臨み、在校生の皆さんのしっかりとしたサポートのおかげで、1年生にとって、中学校生活の良いスタートの一日になったと、うれしく思います。新入生代表による「誓いの言葉」、そして在校生代表による「歓迎の言葉」は、1年生の期待に満ちた言葉と少しの不安な心に対して、迎える側の3年生が、その言葉をの問いに答える対話のようで、とても素敵な言葉の交換になりました。このような入学式を作り上げてくれた生徒の皆さんに感謝いたします。ありがとうございます。



※ 家庭配布版では、裏面に転入教職員及び教職員の紹介を掲載しています。